

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立浜玉中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校評価アンケートの結果から、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価をいただいており、評価項目は概ね達成できている。 ・いじめ問題への対応については、令和元年度と比較して改善はされているものの、生徒・保護者と職員の間で認識のずれが大きい。今後もしっかりと未然防止・早期発見・早期対応に努めていきたい。 ・令和2年度は、小中・地域連携に関する実践は、ほとんど実施できていない。令和3年度は、コロナ感染症の行方を見極めながら例年取り組んでいる実施の有無も含め検討し、停滞した小学校や地域とのつながりの再開を進めたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革については、少しずつ改善が進んでいるとはいえ、時間外勤務は依然として長い傾向にあり、今後一層の推進を図る必要がある。
2 学校教育目標	持続可能な社会の創り手となる生徒の育成 《めざす生徒像》 豊かな心で、未来を切り拓く生徒
3 本年度の重点目標	1 学力の定着と資質・能力の育成（新学習指導要領の具現化） 2 心の教育（人権教育）の充実 3 いじめの早期発見・早期対応 4 キャリア教育の推進 5 地域とともにある学校づくり

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有する。 ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のバランスのよい育成をめざし、ICT環境を最大限活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行う。 ・SDGsを意識した教育課程を編成し適切に実施する。	A	・学校評価、マイプラン、唐津市アクションプランをリンクして捉えチェックシートを活用し授業改善につなげることができた。教職員間でマイプランを共有し、実践を数名の職員が具体的に提示することで、他の職員も参考にして取り組むことができた。 ・生徒が主体的に取り組める授業を目指し、啓発資料を配布したり、日々の教材研究に努めることができた。 ・SDGsに関する集会での話や掲示物等で啓発を図っている。ほとんどの職員が、SDGsを意識した学習活動を仕組み、研究授業が行えた。
	○教職員の指導力向上	○授業の内容が理解できているという生徒の割合を80%以上とする。	・授業の『めあて』を明示し、『振り返り』の場を設定することで、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。 ・新しい学習指導要領のねらいを具現化する教育活動及び学習評価を実施する。	A	・めあてやまとめ・振り返りに関する共通理解を図り、日々の授業実践が行えた。また、校内研究では、授業づくり部会を中心に充実を図るため家庭学習等のアンケートに取り組み事業改善を行った。課題解決に向け、生徒が主体的に学習できる授業づくりを目指して、一人一回の研究授業を行い、授業改善を行った。 ・指導と評価の一体化について、教科ごとに研修を行い研鑽を積んだ。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生70%以上	・人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・部活動や学校行事を通して、達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の心があふれる生徒を育成する。	B	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的に回答をした生徒は81.75%に達している。 ・道徳の授業を通して、友だちの意見を聞いて自分の意見を深めている生徒は85%に達していて、授業で学んだことを自分の生活にいかしている生徒が多い。 ・バス研修（マナー研修・郷土学習）や地域清掃活動を通して、体験活動を実施した。コロナ禍でできる範囲での実施となったが、豊かな心を育む活動となった。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等）について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTテストを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。	A	・様々な取り組み（普段の生徒との関わり、アンケートの実施、部会や協議会、ケース会議等）で、生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努めることができた。 ・道徳の授業を通して、友だちの意見を聞いて自分の意見を深めている生徒は85%に達していて、授業で学んだことを自分の生活にいかしている生徒が多い。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。
	○浜玉中三訓の徹底	○自らあいさつができる生徒の割合を80%以上にする。	・生徒会活動で、生徒に自ら啓発を行わせることで、意識の高揚を図る。 ・生徒会を主体に毎朝あいさつ運動に取り組む。	B	・挨拶運動を継続して行い、挨拶の奨励を行った。コロナ感染症対策で休校や学年行事や学校行事の予定の変更などにより、後半は積極的に校門で行う朝の挨拶運動への参加が見られなくなり、残念であったが、校内ですれ違う際に挨拶や、会釈などは多くなった。 ・生徒のアンケート回答によると81.75%となっており、目標の数値を上回ることができた。
●健康・体づくり	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	⑥全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残食をなくす。	・生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、給食日より等で保護者へ向けても情報を提供し、意識高揚と改善を図る。 ・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。	A	・生活アンケートの結果をもとに、朝食喫食率の向上、食への興味・関心の向上に向けて給食日より等で情報提供を行っている。 ・残食調査はコロナ禍ということもあり、生徒達には行わせていないが、給食センターで行っている残食調査の結果、本校は、残食率0に近い。残食率0に向けて給食指導を継続して行っていく。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・部活動複数顧問制を効果的に活用する。 ・部活終了1時間後に運動する。 ・会議日は「一〇残業DAY（定時退勤日）」とする。	A	・働き方改革を意識し、早めの退勤を心がける職員が増えたため時間外勤務月60時間以下を達成できる職員が増加している。 ・突発的な生徒指導上の対応等による時間外勤務は依然として長い傾向にある。 ・今後も業務改善・働き方改革の推進に向けた工夫改善が必要である。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
○特別支援教育	○個々の生徒に応じたきめ細かい対応	○個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教員70%以上	・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。	A	・教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援を要する生徒について共通理解、共通実践を行うことができた。 ・コーディネーターだけでなく、特支援任、管理職等関係職員による協力のもと、支援体制が充実した。 ・必要に応じて支援会議を実施し、支援を必要とする生徒について協議し、今後の支援について検討することができた。
○志を高める教育	◎キャリア教育の推進と情報提供の充実	◎夢や目標をもち、その実現に向けて努力している生徒の割合を70%以上にする。	・自己理解を深めさせるとともに、働くことの目的や意義について、教科横断的に取り組む。 ・生徒の望ましい進路実現のため、適切な進路に関する情報を提供する。 ・キャリアパスポートを活用しキャリア教育の充実を図る。	B	・学校評価のアンケートにおいて、夢または希望を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組んだ生徒が68%と低い値を示した。職員の取り組みも75%とやや低調である。新型コロナウイルス感染症の影響で、進路学習や体験入学等に制限が加わり、満足のいく活動とならなかったことが原因として考えられる。
○小中・地域連携	○小中連携と地域連携の充実	○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教員が70%以上にする。	・小中連携会議を実施して、小中連携を推進する。 ・本校の方針を発信するとともに、全職員が地域との協働の意識を高め、理想的な関係づくりを推進する。	—	・小中連携に関しては年間に11回の運営委員会を開催しコロナ禍でこれからの連携の在り方や方針を明確に打ち出すことができた。しかしコロナ禍で生徒の活動はほとんどできない状況であり、充実感は目標を達成できなかった。総合学習を通して地域や郷土学習を行いつつ、次年度につなげる。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・コロナ禍の中で行事や学習活動に制限が入る一年であったが、学校評価アンケートの結果から、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価をいただいており、評価項目は概ね達成できている。 ・いじめ問題への対応については未然防止のために指導を重ねているが、悪気のない言動や行動による被害・加害の立場に立つ生徒が出てしまう。保護者との連携をさらに深め未然防止、早期発見、早期対応に努めていきたい。 ・コロナ禍において、昨年度に引き続き小中連携の実践がほぼできていない。来年度は学力向上を中心に据えた小中連携に力を入れていきたい。
----------------	---